

介護者同士がアドバイス

1/16(土) 19 名参加

会場:地域包括支援センター「みさと南」

参加者は会員以外がほとんどで、介護中の方、専門職・行政の方など 15 名。新年に当たって「家族の会」の活動紹介をし、新しい方も多かったので自己紹介から始めました。

お互いに質問や意見を出しあい、大場先生からアドバイスもあって話題は尽きず、毎月開催してほしいという希望も出ました。

● Yさん:実母と姑の両方を見ている。姑は要支援 2 だが、もっと重いと感じる。(日常の、おかしいと思ったことをメモしておき、認定調査のときに伝えたほうがよい、とのアドバイスがあった)。夫の兄弟たちも理解してくれず、ショートステイに一日預けただけで非難される。(兄弟たちに一度預かってもらったら、とのアドバイスも)

● Nさん:父が認知症で、本人はニコニコして歩き回っているが、母のほうが神経症で絶えず父を怒鳴るので、それを聞いているのが辛い。正月は、ショートステイに頼めたので静かで、まるで、宝くじに当たったような気分だった。

● Mさん:母が認知症になって、それが元で父が神経症になったため実家に戻って暮らしている。母は自分の病気を認めず、介護を拒否するので病院にも連れて行かれない。

大場先生は、「介護保険は介護を社会化するためのものなので、さまざまなサービスを利用して、介護者自身がつぶれないようにすることが大切だ」、と話されました。